府立阿武野高等学校
校長　　田中　忠一

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

生徒一人ひとりの「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。
１　「わかる授業」を通して、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。
２　キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。
３　教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成と授業改善
（１）「わかる」、「できる」、そして「学び合える」学習者主体の授業を行い、自ら学ぶ生徒を育てる。
　ア　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を進め、生徒の基礎学力の向上とともに、円滑な人間関係の形成を支援する。
　イ　ICT 機器を効果的に活用して、ユニバーサルデザインの視点を活かした授業や「個別最適な学びと、協働的な学び」を進める。
　ウ　生徒の学習意欲を高める評価方法を研究し、自己肯定感が高まる授業、「わかる」、「できる」と実感できる授業をめざす。
　エ　「阿武野プロジェクト」を中心として、教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用して組織的に授業改善に取り組み、教員の授業力の向上を図る。
　オ　国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。
　※　授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(Ｒ４:88%、Ｒ５:85%、Ｒ６:84.6%)を上昇させ、令和９年度には 90%以上にする。
　※　教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合（Ｒ４:40.5%、Ｒ５:35.8%、Ｒ６:38.7%）を令和９年度には 40%以上にする。
　※　「生徒１人１台端末の効果的な活用」(Ｒ４:90.7%、Ｒ５:93.1%、Ｒ６: 94.8%)を増加させ、令和９年度には 95%以上にする。
（２）学習環境の整備、授業規律の確立を図る。
　ア　学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

２　進路意識の高揚とコース制の充実
（１）進路指導部と学年が協力して、３学年間を見通した系統的なキャリア教育を実施し、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
　ア　総合的な探究の時間(ライフ・プランニング＝LP)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図る。
　※　進路決定率(Ｒ４:98%、Ｒ５:99%、Ｒ６:99%)を上昇させる。
　※　学校紹介就職内定率は 100%(Ｒ４:100%、Ｒ５:100%、Ｒ６:100%)を維持する。
（２）「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。その際、島本高校との機能統合を意識して教育活動に取り組む。
　ア　コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実を図り、進路実現に導く。
　イ　コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成
（１）すべての教育活動を通じて安全・安心に学べる環境づくりを行い、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
　ア　規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
　イ　LP、LHR において、様々な人権課題や集団づくり、アサーション・トレーニング、デジタル・シティズンシップ等の学習を計画的に実施し、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。
　ウ　インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、社会の一員としての自信や誇りと「自尊感情」を育てる。
　エ　大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図るとともに、防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
　※　遅刻について、前年度比５%の減少を図る。
（２）生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。
　ア　学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
　イ　部活動の活性化を図る。
　ウ　様々な生活背景や課題を抱える生徒を学校全体で受け止め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図る。
　※　部活動加入率(Ｒ４:43.9%、Ｒ５:49.5%、Ｒ６:53.9%)を上昇させ、令和９年度には 55%以上にする。

４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上
（１）阿武野高校の魅力を発信し、地域の信頼感を高める。
　ア　中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
　イ　学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。
（２）組織的、継続的に学校力の向上を図る。

５　校務の効率化と働き方改革
（１）生徒と向き合う時間を確保するため、ICT を活用して校務の効率化を図る。
　ア　グループウェア、学習支援クラウドサービス等を活用することで、校内の連絡、周知事項の徹底、意見交換を促進し、業務時間の縮減を図る。
　イ　業務について方法や分担の見直しを行い、改善可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。
（２）働き方改革の取組を進め、教職員のワークライフバランスの充実を図る。
　ア　時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。
　イ　生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。
　　「教職員間の相互理解、信頼関係」(Ｒ４:97.3%、Ｒ５:100%、Ｒ６:93.3%)を令和９年度には 95%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和７年 12 月実施分］	学校運営協議会からの意見
【生徒回答】 ●学校について NO. 1【学校が楽しい】84.1%（+5.0p） NO. 2【クラスが楽しい】82.7%（−1.9p） 学校全体への肯定的評価は上昇しており、行事や日常の教育活動、教職員との関わりが生徒の安	第１回（令和７年６月 12 日） ●中学校では「自分の足で行き、目で見て確かめる」という指導をしており、実際に、学校へ訪問した生徒は満足していることが多い。そのため、オープンスクールやクラブ体験会などの機会を増やすことは広報として非常に有効

府立阿武野高等学校

心感や充実感につながっていると考えられます。一方で、学級に対する評価はやや低下しており、日常的な人間関係や集団づくりの在り方が今後の課題です。学級経営の充実を通して、学校生活全体の満足度向上につなげてまいります。
●授業について
NO.４【授業準備・提出物】83.5%（−4.2p）
NO.６【授業満足度】82.9%（+5.8p）
NO.７【授業理解度】87.6%（+7.6p）
NO.８【授業規律】74.2%（+1.3p）
授業満足度や理解度は大きく向上しており、授業改善や工夫の成果が表れていると考えられます。一方で、授業準備や提出物に関する数値は低下しており、家庭学習習慣や自己管理能力の育成が課題です。授業規律は改善傾向にありますが、より落ち着いた学習環境を安定的に維持できるよう指導の共有を図ります。

NO.20【障がい理解学習】99.8%（+4.2p）
NO.21【障がい理解の深化】92.5%（+0.9p）
障がい理解に関する項目は非常に高い水準を維持しており、本校が大切にしている「ともに学びともに育つ」の理念が着実に浸透していることがうかがえます。

NO.23【タブレット活用】95.4%（+0.6%）
ICT 活用は定着しています。今後は活用の「量」だけでなく「質」の向上を意識し、学習効果を高めていきます。
●安全で安心な学校づくり
NO.14【教育相談体制】74.8%（＋5.4p）
NO.15【いじめ対応】86.1%（+0.6p）
NO.16【校内美化】85.2%（+3.9p）
いずれも上昇しており、相談体制や迅速な対応への評価が高まっています。引き続き、早期発見・早期対応を徹底するとともに、予防的な取組みを強化してまいります。
●生徒指導
NO.12【生活習慣・規律指導】87.5%（−1.9p）
NO.13【指導への納得度】68.4%（+2.9%）
規律指導への理解は一定得られているものの、指導への納得度は十分高いとは言えません。ルールの意義を丁寧に説明し、生徒との対話を重視した指導を進めてまいります。
●学校行事
NO.11【行事の工夫】90.0%（+2.4p）
行事への評価は高く、生徒主体の企画・運営が成果につながっています。今後も当事者意識を育む行事運営を継続します。

【保護者回答】
●子どもの学校生活
NO.１【学校を楽しみにしている】70.0%（+2.0p）
NO.２【クラスを楽しんでいる】69.6%（−1.7p）
学校全体への安心感は広がっていますが、学級での様子についてはやや慎重な見方が見られます。学級経営の充実と情報共有が求められます。
●学校への取組み評価
NO.６【情報提供】79.9%（＋2.2p）
NO.７【家庭との連絡】86.2%（＋6.2p）
NO.11【進路指導】83.4%（＋4.6p）
NO.10【生徒指導への理解】70.0%（-2.9p）
連絡体制や進路指導への評価は向上しています。一方で、生徒指導に対する理解は低下しており、指導方針の説明や共有の在り方を見直す必要があります。
●安全・安心
NO.12【防災・交通安全】81.9%（+1.9p）
NO.13【障がい理解・人権教育】89.8%（+6.9p）
NO.14【心身の健康支援】81.9%（+7.7ｐ）
NO.15【いじめ対応】81.5%（+9.6p）
全項目で上昇しており、学校の取組みに対する信頼が高まっています。引き続き丁寧な情報発信と迅速な対応を徹底します。
●学校行事・来校機会
NO.16【行事での来校機会】55.5%（−5.1p）
来校機会への評価は低下しています。対面での機会の充実とともに、SNS 等を活用した情報発信を補完的に進めます。

【教職員回答】
●学校運営・組織体制
NO.３【教育活動の話し合い】90.9%（−4.7p）
NO.４【評価の次年度活用】86.3%（−7.0p）
NO.６【職場の信頼関係】86.4%（−6.9p）
高水準を維持しているものの低下が見られます。業務の多様化が進む中、組織的な意思疎通と情報共有の質をさらに高める必要があります。
●授業・人材育成
NO.７【経験年数の少ない教員フォロー】84.1%（+15.4p）
NO.13【参加体験型授業】97.7%（+4.4p）
NO.14【授業規律】75.0%（+8.3p）
経験年数の少ない教員への支援体制は大きく向上しました。主体的な学びを意識した授業改善も進んでいます。今後は安定的な授業規律の確立を図ります。
●進路指導
NO.23【キャリア教育】88.7%（＋6.5p）
NO.24【推薦基準の適切さ】97.7%（＋4.1p）
NO.25【個別進路指導】100%（＋6.7p）
進路指導は非常に高い評価を得ており、本校の強みといえます。今後も個別面談の充実を図ります。
●人権・地域連携
NO.27【人権尊重の指導】93.2%（−6.8p）
NO.34【地域連携】93.2%（+2.1p）
人権尊重の姿勢は高水準ながら低下が見られます。共通理解をさらに深め、丁寧な指導を徹底します。地域連携は引き続き本校の強みとして発展させてまいります。

であり、中学校としてもありがたい。また、中学生にとって、クラブは高校を選ぶ大きな要因であり、阿武野高校としてクラブをアピールしていくのはとても効果的である。加えて、 体験授業で高校生の授業を経験することも、中学生にとって良い経験になるので、 無理のない範囲で実施して頂きたい。
●子どもが入学して３回目の体育大会であったが、今までで一番充実した内容であった。PTA による水分補給の活動や玉入れに参加したことがその要因であり、これからも継続
して行えたらいいと思う。
●体育大会に保護者が参加することで、高校生との会話が増えたので体育大会に 一体感が出たように感じた。水分補給が午前中になくなってしまったので、来年度はもう少し増やしたほうがいいのかなという反省が PTA の中であった。
●居場所カフェでは机や椅子に座るよりも、床に座れるようにしたほうがいいのではないか。椅子が埋まっていたら、せっかく来ても帰ろうとしてしまうかもしれない。ローテーブルを用意して、そこにみんなで座れたら、利用者が増えていくと思う。
●文化祭のキッチンカーによる出店のことも中学生に魅力を感じてもらえるのでは？

第２回（令和７年 11 月 12 日）
●授業を通して生徒の「まとめる力」や「発表する力」を育んでいる。
●文化祭での PTA 企画「お菓子すくい」において、生徒の自主的な協力に感動した。
●授業見学で、班ごとい話し合ってダイアモンドランキングを作成する取組があり、しっかりと意見交流ができていた。
●図書だよりで先生方のおすすめが紹介されており、読書のきっかけになればいいと思う。
●修学旅行の楽しさや、民泊での貴重な体験について子どもがたくさん話してくれた。
●制服やジャージのリユースや居場所カフェでのバザー開催はできないか？
●「優しさ」「人間関係づくり」「温かさ」を丁寧に育むことが、主体的な学びや授業改善につながっていく。

第３回（令和８年１月 28 日）
【学校教育自己診断の結果について】
●令和元年から振り返ってみると、学校教育自己診断の各指標は全体として少しずつ改善してきており、生徒の態度や取組みも向上していることが確認できた。
●生徒が学校の取組に対してしっかり応えている姿が数値に表れており、学校としての努力が一定反映されていると感じられた。 一方で、最も肯定率が低い項目として「家庭での学習」が挙げられ、これは過去から大きく改善されていない傾向がある。宿題や家庭学習の課題の出し方、または自学自習を促す仕掛けが各教科でどうなっているのか、今一度見直す必要を感じている。主体的に学ぶ力を育てるためにも、ここが今後の改善ポイントではないかと思われる。
●保護者と教職員の認識の違いが見られる項目は特に注意すべきで、単年度の変化を見るだけでなく「捉え方の差」そのものを丁寧に毎年確認していくことが大切である。

【地域との関わり・イベントの重要性 について】
●地域の立場から見ても、学校行事や地域イベントは「生徒・教職員・地域・保護者」が一緒に楽しめるものであることが大切だと考えており、実際に小学校の放課後子ども教室などでは活発な取組みが行われている。
●地域との取組が地域の人の協力のもとに実施され、保護者からも「参加できて楽しい」「自分も初めての経験だった」という前向きな声が上がっている。地域の自然資源（竹・山など）も豊かで、こうした体験活動は生徒の関係づくりや学校への信頼にもつながる。●地域としても、学校と協働しながら「子どもたちの未来につながる体験」の場づくりに関わっていきたい。

府立阿武野高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　確かな学力の育成と授業改善	（１）「わかる」「できる」「学び合える」授業をめざした授業改善 ア　主体的・対話的で深い学びの実現 イ ICT 機器の効果的な活用・深化 ウ　学習意欲を高める評価方法の工夫	（１）アイウ ・生徒の実態・学習状況に基づいて、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを行い、自尊感情が高まり、やればできると実感できる授業を行う。 (授業を通じた生徒指導、ポジティブな行動支援、楽しくわかる授業、一人ひとりが活躍できる・互いの意見を認め合う場を設定した授業) ・１人１台端末や学習支援クラウドサービスを効果的に活用して、自ら学ぶ力の育成、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着・向上に取り組む。 (授業のユニバーサルデザイン、アクティブ・ラーニング（AL)、個別最適な学びと協働的な学び)	（１）アイウ ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度[84.6%]より向上させる。 ・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合を前年度[38.7%]を向上する。 ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」を前年度[94.8%]より向上させる。	（１）アイウ ・授業アンケート「授業内容の興味・関心」は、86.0%、「知識・技能の定着」は 86.5%でその平均は 86.3%。（○） 授業への導入、主体的に考えさせる学習活動、スモールステップによる達成感、振り返りの充実などの授業改善の取組みが一定の成果を上げていると考えられる。今後も生徒の実態を踏まえた授業改善を継続することで、さらなる質の向上が期待される。 ・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合は、39.8%。（○） ・学校教育自己診断[生徒]「生徒１人１台端末の効果的な活用」は、95.4%。（○） 教科内容を生徒の身近な出来事と関連付けたりすることで、生徒の興味・関心を高める工夫が一層進展した。ICT の活用についても、単なる教材提示にとどまらず、データの整理・分析、発表や意見交流、実技における動きの確認など、生徒自身が主体的に ICT 機器を活用する授業が増え、学びの深化につながっている。また、学習支援クラウドサービスの活用が着実に進み、定期考査の範囲設定や長期休業中の課題配信を授業計画に位置付けることで、復習しやすい学習環境を整えた。教員の継続的な言葉かけにより、課題提出率も概ね良好である。今後も、基礎学力の定着や学習習慣の形成につながる効果的な活用をめざし、取組を継続していきたい。
	エ　校内研修の充実	エ・「阿武野プロジェクト」（あぶプロ）が中心となり、授業規律、学習形態や学習内容、評価方法の工夫等をテーマにした校内研修を実施し、課題と成果を全校で共有する。	エ・校内研修を３回以上実施［３回］	エ　研究授業・研究協議・全体研修を６月・10 月・１月で３回実施。（○） 研究授業のテーマ 「支援が必要な生徒に対してどのようにアプローチをするか」 全体研修会のテーマ ６月…カリキュラムの方向性（求める生徒像） 10 月…カリキュラム再編にむけて １月…「担任」について語る
	オ　国際交流等による異文化理解、英語力の向上	オ・国際交流事業や英検受検等を通じて、英語力と多様性尊重の態度を育む。	オ・オンライン国際交流や対面国際交流事業の活性化。 ［オンライン国際交流実施できず、対面国際交流事業生徒４名参加］	オ　12 月に英語の授業で台湾の永春高校とオンライン国際交流を行った。本校紹介動画の上映後、互いに質問等を行うことで交流を深めることができた。３/18～27 に米国・ワシントン州の姉妹校（ケントレイク高校）との国際交流を実施予定。４名の生徒が参加。（○）
	（２）学習環境の整備と授業規律の確立 ア　授業に集中できる環境の整備	（２） ア・学習環境の整備、授業準備、授業規律の指導を各学年団で徹底し、授業に集中できる環境を整える。 ・担当分掌を中心に全教職員で日々の校内美化を推進。 特に、行事前後や学校説明会などの清掃活動時には重点を置く。	（２） ア・学校教育自己診断[生徒]における「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度[72.9%]より向上させる。 ・同「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度[81.3%]より向上させる。	（２）ア ・「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価は、74.2%。（○） １年次の段階から丁寧な指導を積み重ねることで、授業における規律の大切さを生徒に理解させ、全ての生徒が安心して学びに向き合える学習環境の形成を図っている。 ・「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価は、85.2%。（○） 清掃の目的や大切さを理解させるとともに、各自の役割を自覚して取り組む態度を育てる清掃指導を全校で推進し、落ち着いて学習に取り組める環境の維持につなげていく。
２　進路意識の高揚とコース制の充実	（１）主体的に進路を選択し実現できる生徒の育成 ア　系統的・継続的なキャリア教育の推進	（１） ア・ライフプランニング(LP)、LHR が３学年間を見通した系統的・継続的なキャリア教育として充実するよう、進路指導部・各学年・人権教育担当分掌で協議・検討し、より良いキャリア教育プログラムに改善する。 ・進路指導部・教務部・各学年団が協力して、補習・講習等を実施し、生徒の主体的な進路選択を支援する。	（１） ア・学校教育自己診断[生徒]における「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[95.2%]より向上させる　。 ・２年生の進路目標確定 100%を維持。[100%] ・卒業時進路決定率を前年度[99%]をより向上させる。 ・学校紹介就職内定率 100%を維持。 ・進路指導部３年アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合 100%をめざす。	（１）ア ・「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価は 96.4%。（○） ・夏季休業期間中には、各学年において補習や講習を行うとともに、担任による三者面談を実施した。あわせて、進路情報業者と連携した進路ガイダンスの開催や、進学に関する資料請求、アンケートの実施を通して、生徒の進路に対する意識の向上を図った。 ・２年生の進路目標確定は 100%。（○） ・卒業時進路決定率は 99%。（○） ・学校紹介内定率は 95.2%。（△） ・進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価は 94%。（△）

府立阿武野高等学校

	（２）自立支援コース、専門コース、選択科目等の教育内容の充実	（２） ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。	（２） ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度[87.0％]より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[87.2％]より向上させる。	（２） ア・「専門コースの授業に満足」の肯定的評価は、89.4％。（○） 福祉・保育専門コースおよびスポーツ専門コースでは、体験的な学びを通して理解と関心を深め、２年間の学習を通じて、将来を見据えた多様な生き方や関わり方を主体的に考える力を育成することができている。 イ・「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価は90.4％。（○） ・地域の保育園、支援学校、高齢者施設、障がい者施設等との交流実習など出会いを大切にした授業を計画的に行い、当事者の方による講演会を充実させることができた。体験的な理解を促し、興味関心を深めることにつながった。
３　安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	（１）カウンセリングマインドをもった生徒指導と人権教育の推進 ア　規範意識の高揚と基本的な生活習慣の確立	（１） ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、丁寧な遅刻、頭髪、制服の指導を行うとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野校生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・入学当初から中高連携を丁寧に実施し、一人ひとりを大切にするカウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。	（１） ア・年間延べ遅刻数3,000人以下を維持。[2,547人] ・学校教育自己診断[教職員]「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度[93.4％]より向上させる。 ・同[生徒]「指導の納得度」、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価を前年度より向上させる。[各65.5％、]72.9％]	（１） ア・年間延べ遅刻数は、2,652件。（○） ・「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価は93.2％。（○） ・[生徒]「指導の納得度」の肯定的評価は、68.4％（○）、[保護者]「生徒指導の方針に共感」の肯定的評価は、72.0％。（○）。
	イ　いじめや差別の未然防止	イ・「障がい理解学習」、「学年開き」「クラス開き」、情報モラル(SNSとの関わ方)、ソーシャルスキルの獲得を含む学習を計画的に実施し、違いを認め合い多様性を尊重する人権教育と集団育成を実践する。 ・問題行動の未然防止に取り組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。	イウ ・同[生徒]「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[95.6％]より向上させる。	イウ ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価は99.8％。（◎） ・人権学習については、内容・回数ともに一定の充実が図られている一方で、実施時期や学習テーマの設定については、引き続き工夫と改善が求められる。今後は、生徒の実態を丁寧に把握しながら、段階的に内容の見直しを進めていきたい。 １年次では、早い段階から人間関係づくりに課題が見られることを踏まえ、人との適切な距離感や言葉の使い方をテーマとした人権学習の時間を、LPやLHRを中心に増やした。11月には障がい理解をテーマとした学習を行い、当事者の方の話を直接聞くことで、人権の意義について考えを深める貴重な機会となった。 ２年次では、「あぶねっと」の活動を通して地域の多様な取組に参画し、人権意識の向上とともに、地域社会との関わりについての学びを深めることができた。
	ウ　社会貢献活動と地域交流の推進	ウ・社会貢献活動「あぶねっと」やクラブ等による地域交流、ボランティア活動等により、社会の一員としての自信や誇りと「自尊感情」を育てる。	・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度[79.1％]より向上させる。	・「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価は84.1％。（◎）
	エ　防災教育、交通安全教育の推進	エ・地域や関係機関と連携して、実践的な防災教育、交通安全教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。	エ・防災教育、交通安全教育の実施。[３回]	エ ・１学期には火災を想定した避難訓練、２学期は交通安全教室、３学期には防災HRを実施した。（○） ・交通安全テストは、全学年で全員合格。（○）
	（２）生徒の自主的活動の充実	（２） ア・学校行事や生徒会活動の活性化を図る。生徒が主体的に活動する機会の創造や取り組みの工夫を行い、成就感・達成感を体感させるとともに自尊感情を育てる。 イ・部活動の活性化を図る。クラブ員集会、リーダー講習などによる連帯感の醸成。部活で頑張る生徒の存在感を高める。地域連携の維持、強化。	（２） ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度[87.6％]より向上させる。 イ・部活動加入率を前年度[53.9％]より向上させる。 ・生徒会や部活動による地域交流回数30回以上を維持する。前年度[57回]。	（２） ア・「学校行事満足度」の肯定的評価は90.0％。（○） イ・部活動加入率は51.3％。（○） ・地域の依頼を受け、生徒やクラブ員が複数のお祭りやイベントに出演者として参加したり、運営に携わったりして活躍した。地域交流は、45回実施。（○）
		ウ・教育相談委員会体制をさらに充実し、生徒支援力を高める。 ・ケース会議を通じて、SC(スクールカウンセラー)、SSW（スクールソーシャルワーカー)、福祉・行政の関係機関との連携を推進し、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、よりよい支援体制を整備していく。 ・教育相談、キャリア教育、支援教育それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制づくりをめざして、保健室、スマイル（教育相談室)、図書室などで多様な生徒の居場所を確保し、多面的な生徒支援を行う。	ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。 ・同「先生や保健室・相談室などで、相談することができる。」の肯定的評価を前年度「69.4％」より向上させる。	ウ ・個別の教育支援計画は必要な生徒にすべて作成。 ・「先生や保健室・相談室などで、相談することができる。」の肯定的評価は、74.8％。（◎） ・週１回の教育相談委員会では、SCやSSWにも助言をいただきながら、生徒の現状把握、具体的な支援の在り方を定期的に議論できた。 ・月に一度「スマイル週間」を設定し、昼休みに教育相談室を開放した。また、「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」に採択され、９月より近隣の一般社団法人との連携により居場所カフェ「あぶりすのおうちカフェ」を開設（昼休みと放課後にオープン)。スマイル習慣も居場所カフェも生徒が弁当を持参して自由に立ち寄り、進路や日常の学

				校生活について気軽に話せる場として運用し定着してきている。教員にとっても、生徒の何気ない言動や表情の変化を把握する機会となっており、困りごとや不安の早期発見・早期支援につなげる有効な取組である。次年度も継続的に実施するとともに、教育相談と居場所カフェとの連携をさらに深め、多面的な生徒支援の充実を図っていきたい。
４　地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上	（１）広報活動の強化	（１） ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校ホームページや公開授業を通じて、保護者や中学校の先生方に本校生徒の高校生活や授業の様子など教育活動を発信する。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。	（１） ア・学校説明会等の計画的、組織的実施 12 回以上。前年度[29 回] イ・学校教育自己診断[保護者]「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度[77.7%]より向上させる。	（１）ア 学校説明会等の計画的、組織的実施 合計 25 回実施（◎） ・進学フェア１回、地域の中学校対象説明会１回、オープンスクール４回、クラブ体験会４回、中学校訪問(41 校)など合わせて 11 回実施。 ・今年度も第１回オープンスクール前に部活動生徒による母校訪問（11 校）を実施し本校の魅力について積極的な PR を行った。１回実施。 ・自立支援コース説明会２回、個別見学会 11 回。合わせて 13 回実施。 ・オープンスクールは、生徒会・クラブ員が中心となって運営。 ・気になる生徒については、随時出身中学校に連絡し、中高連携を図っている。 イ・「教育情報提供満足度」の肯定的評価は、79.9%。（○） ・４月より学校ブログ以外の情報発信として、SNS を積極的に活用。 ・年間５回の行事予定表の配布及び HP 掲載時期を早め、生徒・保護者等が学校の予定を、余裕をもって確認できるように努めた。 ・定期考査ごとに成績通知表を発行し、生徒・保護者が学習状況を把握できるように努めた。 ・在校生の保護者向けに、重要なお知らせ等、必要に応じてメールマガジンを配信。
	（２）組織的、継続的な学校力の向上	（２） ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。	（２） ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回以上。[12 回] ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度[68.7%]より向上させる。	（２） ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回。（○） ・[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価は、84.1%。（◎） ・人権研修は、障がい、生徒への支援方法をテーマに３回実施した。 ・全教員を対象にした研修会を計画的に実施しているが、さらなる対応策の検討を行う。
５　働き方改革の推進と教職員のワークライフバランスの充実	（１）ICT による校務の効率化	（１） ア　・校務処理システムやグループウェア、学習支援クラウドサービスを活用することで、情報の一元管理、ペーパーレス化を進める。家庭との連絡、校内の連絡、周知事項の共有・徹底、教職員間の意見交換等を促進し、業務時間の縮減を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 イ　・削減可能な業務の洗い出しを行い、可能なものから実行するとともに、校内組織の見直しを進めていく。	（１） アイ ・学校教育自己診断［教職員］「教職員の相互理解、信頼関係を前年度［93.3%］より向上させる。	（１） アイ ・「教職員の相互理解、信頼関係」の肯定的評価は、86.4%。（△） ・運営委員会・職員会議を４月当初から完全ペーパーレスに移行した。Web 会議システムの活用で情報共有がよりスムーズになり業務改善を進めることができた。 ・欠席連絡システムについては、情報の一元管理ができるだけでなく、担任団での生徒情報の速やかな共有につながっている。さらには、モニターを職員室の中央に設置することで、すべての教職員が生徒の欠席・遅刻連絡状況を把握することができている。 ・教務部では業務内容の「見える化」をさらに推進させ、業務分担を改善した。また、業務内容に関する「マニュアル」を作成し、教務経験の少ない教員でも作業に取り組みやすい環境を整えた。
	（２）働き方改革の推進、教職員のワークライフバランスの充実	（２） ア　・時間外在校時間の縮減、年休取得の推進など、長時間勤務が解消できるよう努める。 イ　・生徒のみならず、教職員にとっても安全・安心な学校となるよう努める。 ・OJT の充実や ICT の導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行い、教職員の負担感軽減を図る。	（２） アイ ・教職員一人あたりの平均時間外在校時間 30h 以内[33.8h(12 月末現在)] ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位を維持する。[86(教育庁全体 98)]	（２） ア・教職員一人あたりの平均時間外在校時間は 33.37h(12 月末現在)（△） イ・ストレスチェック結果の総合健康リスクは 79。（◎） ・仕事の偏りを解消したり、課題解消のノウハウを全体で共有したりするなどして、仕事の量的な負担感を減じていきたい。